

趣旨

第4期科学技術基本計画や大学改革をめぐる議論など、新たな情勢等を踏まえ、平成25年度以降の科研費等による学術研究助成の在り方について審議をとりまとめたもの

主な内容

現状

今後の在り方

1. 大学における研究力強化のための支援

- 論文数等による我が国の国際プレゼンスが低下傾向にあり、一定以上の論文発表等を担う大学数が諸外国に比べ少ない。
- 基盤的経費の削減により、競争的資金による研究を含めた研究体制・環境に支障。
- 研究体制・環境に関する全学的な解決を図るための学長の裁量権・資源が不足。
- 学術研究基盤の脆弱化・機関間の格差拡大による研究の多様性・人材流動性低下→我が国の学術・科学技術の活力低下が懸念。

- 我が国において**研究面で国際競争力を有する大学(「リサーチ・ユニバーシティ」)の層を厚くすることが必要。**(文部科学省「大学改革実行プラン」)
- 各大学において**学長のリーダーシップの下、研究戦略に基づく魅力ある研究環境の構築**により、**科研費を含めた競争的資金による研究が一層効果的に行われる好循環の創出が必要。**
- 基盤的経費と競争的資金の双方による支援(デュアル・サポート)の維持を基本としながらも、**大学の研究力を強化するために新たな追加支援策が必要。**

2. 科研費の基金化の拡大

- 現在、基金化の対象種目は5種目:新規採択課題数の約9割を占めるが、配分額では4割。
- 科研費の基金化の効果に関する検証の結果、基金化のメリットは大きく、早期の基金化拡大を求める回答が多数。

- **科研費の全額の基金化が望ましい。**
- 財政効率の観点から、すでに(独)日本学術振興会に創設された「学術研究助成基金」を他種目の研究費前倒し等にも柔軟に活用できるようにするなど、**できるだけ予算増を伴わない基金化の仕組みの検討が必要。**

3. 新学術領域研究の改善

- (制度導入時(H20)からこれまでの評価)
異分野連携による多様な視点・手法の取り込みによる研究の発展や、領域内の密接なコミュニティによる若手研究者育成
- (課題)
 - ①領域研究の更なる発展のための継続的支援
 - ②公募研究の設定等
 - ③新学術領域研究と他の研究種目との重複制限の緩和
 - ④既存分野への支援

- ①**過去に採択された領域研究をベースとする際もその研究成果・評価を審査に適切に反映。**
- ②**公募研究の2件までの重複を認めるとともに、領域内での公募研究の規模に一定の件数・予算額の基準を設定。**
- ③**新学術領域研究計画研究代表者と基盤研究(S)研究代表者、及び新学術領域研究計画研究代表者・公募研究代表者と特別推進研究研究分担者の重複受給を認める。**
- ④**既存分野の研究の深化、新展開、水準向上等を目的とする研究も重要であることを明確化。**

4. 研究成果公開促進費「学術定期刊行物」の改善

- 科研費等の優れた研究成果の国際社会への発信による我が国の学術研究の展開促進や国民の研究成果へのアクセシビリティの向上のため、学術情報の電子化やオープンアクセス化に対応した支援が課題。

- ①**種目名を「国際情報発信強化」に変更**
- ②**電子ジャーナルの発行等に必要な経費の助成**
- ③**国際情報発信強化に向けた新たな取組の評価**
- ④**オープンアクセス誌の育成の支援のための制度改善が必要**